



特別  
95  
8329  
9



持

門 5  
號 8329  
卷 9



此乃... (Vertical calligraphy)

... (Vertical calligraphy)

... (Vertical calligraphy)

... (Vertical calligraphy)

... (Vertical calligraphy)

... (Vertical calligraphy)

... (Vertical calligraphy)

... (Vertical calligraphy)

... (Vertical calligraphy)

今日の所は、  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

Handwritten text in cursive script, likely a title or heading.

Small handwritten note or signature above the main text.

Main body of handwritten text in cursive script, consisting of several lines.

Small handwritten note or signature below the main text.

Multiple lines of handwritten text in cursive script, including a section that appears to be enclosed in a rectangular border.

Handwritten text in cursive script, likely a title or heading.

Handwritten text in cursive script, likely a title or heading.

Main body of handwritten text in cursive script, consisting of several lines.

Small handwritten note or signature below the main text.

Main body of handwritten text in cursive script, consisting of several lines.

今日もまたおもしろい一日

三つ

おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日

おもしろい

おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日

おもしろい

今日もまたおもしろい一日

おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日

おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日

おもしろい

おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日  
おもしろい一日

おもしろい

今日もまたおもしろい一日

二五九

天竺の僧侶の  
名を記す  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

中  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

天竺の僧侶の  
名を記す  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

中  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

天竺の僧侶の  
名を記す  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

天竺の僧侶の  
名を記す  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

中  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

天竺の僧侶の  
名を記す  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

中  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

天竺の僧侶の  
名を記す  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

中  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

天竺の僧侶の  
名を記す  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

中  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

天竺の僧侶の  
名を記す  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、



其ノ礼ニ向ヒテハ必ズ其ノ心ニ以テテ之ル  
 其ノ心ニ以テテ之ル其ノ心ニ以テテ之ル  
 其ノ心ニ以テテ之ル其ノ心ニ以テテ之ル

其ノ礼ニ向ヒテハ必ズ其ノ心ニ以テテ之ル  
 其ノ心ニ以テテ之ル其ノ心ニ以テテ之ル

二十日書

其ノ礼ニ向ヒテハ必ズ其ノ心ニ以テテ之ル  
 其ノ心ニ以テテ之ル其ノ心ニ以テテ之ル

其ノ礼ニ向ヒテハ必ズ其ノ心ニ以テテ之ル  
 其ノ心ニ以テテ之ル其ノ心ニ以テテ之ル  
 其ノ礼ニ向ヒテハ必ズ其ノ心ニ以テテ之ル

其ノ礼ニ向ヒテハ必ズ其ノ心ニ以テテ之ル  
 其ノ心ニ以テテ之ル其ノ心ニ以テテ之ル

其ノ礼ニ向ヒテハ必ズ其ノ心ニ以テテ之ル  
 其ノ心ニ以テテ之ル其ノ心ニ以テテ之ル

七月十三日

其ノ礼ニ向ヒテハ必ズ其ノ心ニ以テテ之ル  
 其ノ心ニ以テテ之ル其ノ心ニ以テテ之ル





余子及他年之何事也乎抑也之何事也乎  
正年之何事也乎抑也之何事也乎  
以刺也之何事也乎抑也之何事也乎  
左第及第之何事也乎抑也之何事也乎  
所大知也之何事也乎抑也之何事也乎  
伊特之何事也乎抑也之何事也乎

十二月十日

此書之何事也乎抑也之何事也乎

二月十日之何事也乎抑也之何事也乎

某部之何事也乎抑也之何事也乎

此部之何事也乎抑也之何事也乎

他部之何事也乎抑也之何事也乎

何事也

此部之何事也乎抑也之何事也乎

此部之何事也乎抑也之何事也乎

一 此部之何事也乎抑也之何事也乎

清江知在海南七家之十人  
一安日家年路好川  
祐吉五人  
一右内家年路好  
一德吉  
一御中志在海南五孫  
一祐吉  
一安日家年路好  
一安日家年路好  
一安日家年路好  
一安日家年路好  
一安日家年路好

四二七

清江知在海南七家之十人  
一安日家年路好川  
祐吉五人  
一右内家年路好  
一德吉  
一御中志在海南五孫  
一祐吉  
一安日家年路好  
一安日家年路好  
一安日家年路好  
一安日家年路好  
一安日家年路好

清江知在海南七家之十人  
一安日家年路好川  
祐吉五人  
一右内家年路好  
一德吉  
一御中志在海南五孫  
一祐吉  
一安日家年路好  
一安日家年路好  
一安日家年路好  
一安日家年路好  
一安日家年路好

四二八

清江知在海南七家之十人  
一安日家年路好川  
祐吉五人  
一右内家年路好  
一德吉  
一御中志在海南五孫  
一祐吉  
一安日家年路好  
一安日家年路好  
一安日家年路好  
一安日家年路好  
一安日家年路好

四二九





右の二冊は、可成り古く、  
後より付したる

十月廿二

京都出陣

一

京都出陣

京都出陣の事、  
十月廿二日、  
京都出陣

京都出陣の事、  
十月廿二日、  
京都出陣



〇

十月十日

五十年

江戸市川町

左布衣居る  
水一巻  
木部

〇  
かゝる書は世に多し。其の間に、  
以て天下を治するの術を

に記し、後世に傳ふるに  
意を盡すものあり。此の

書もその中の一つ。其の

語句は、古きより傳へ  
たるものあり。其の

意は、世に治するに  
必要なるものあり。

其の書は、世に多し。其の

間に、かゝる書は、世に

多し。其の間に、かゝる

三六







土下月六

下中たふさき  
一休たふさき  
非任たふさき

三休たふさき  
四休たふさき  
少休たふさき  
一休たふさき  
非任たふさき  
下中たふさき

上の一休たふさき

子成のりる天々をいりておとしりて

右也修徳に心中の道にあらざる一様扱にせむ

此の心もつねにわたりておとしりておとしりて  
おとしりておとしりておとしりておとしりて  
おとしりておとしりておとしりておとしりて  
おとしりておとしりておとしりておとしりて  
おとしりておとしりておとしりておとしりて

土下月六

若くは揚子江の北の地

此方より揚子江の北の地

揚子江の北の地

心算の中身は口算より倍はる。是より倍はる。心算  
素より口算より倍はる。口算は倍はる。口算は倍はる。  
素より口算より倍はる。口算は倍はる。口算は倍はる。  
目算兼遠にも加はる。口算は倍はる。口算は倍はる。  
毎々口算一紙に

御上は口算は倍はる。口算は倍はる。口算は倍はる。  
口算は倍はる。口算は倍はる。口算は倍はる。  
口算は倍はる。口算は倍はる。口算は倍はる。  
口算は倍はる。口算は倍はる。口算は倍はる。  
口算は倍はる。口算は倍はる。口算は倍はる。

三書每以五入

佛指兒名遊子亦如也存之為是子於  
形勢日其微子乃之存如形事也之尤如  
之之之之之之之之之之之之之之之之

山東下一條一及之存之也

只言之如之存之條理之也也也也也也  
只言之如之存之也也也也也也也也也  
佛口之存之也也也也也也也也也也也  
之之之之之之之之之之之之之之之之

只言之如之存之也也也也也也也也也

時言如事也也也也也也也也也也也也  
之之之之之之之之之之之之之之之之  
只言之如之存之也也也也也也也也也

十二月廿六

一傳之存人

神保國知也

之之存外也也

田中上作也

小原也也也



二城之んま

月夜に...

三月...

一かた...  
一原...  
津...

三月...

四月...

五月...

六月...

三月...  
四月...  
五月...  
六月...  
七月...  
八月...  
九月...  
十月...  
十一月...  
十二月...

三月...

井...

四月...

五月...

六月...

三月...

井代...

三月...

三月...

高江口  
大田

たしち江口

高江口  
大田

たしち江口

高江口

たしち江口

高江口  
大田

高江口

たしち江口



形付つてふかきなりけり  
之が世に中候ありて下  
心も試すまて、多分は  
中候ありて  
はるるも老中、志  
て、多分は  
上り、多分は  
下り、多分は  
方々、多分は

あまのついでにふりかへりては  
はらふもついでにふりかへりては  
とてふもついでにふりかへりては  
ふりかへりては  
一、由緒のふりかへりては  
はらふもついでにふりかへりては  
とてふもついでにふりかへりては  
ふりかへりては

あまのついでにふりかへりては  
はらふもついでにふりかへりては  
とてふもついでにふりかへりては  
ふりかへりては  
一、由緒のふりかへりては  
はらふもついでにふりかへりては  
とてふもついでにふりかへりては  
ふりかへりては

大下言一、... 妙... 妙... 妙...  
 ... 妙... 妙... 妙...  
 ... 妙... 妙... 妙...  
 ... 妙... 妙... 妙...

はた...  
 十三日

...  
 ...

...  
 ...  
 ...

凡有...  
...  
...  
...  
...

美草集

...  
...  
...  
...

...  
...

...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

細紙抄書

何故云々

右の抄書は、世に主として法書として知られ、  
其の筆致は、極めて整然として、  
一筆一画、悉く丁寧である。

右の抄書は、  
一筆一画、悉く丁寧である。

古風な筆致

右の抄書は、世に主として法書として知られ、  
其の筆致は、極めて整然として、  
一筆一画、悉く丁寧である。

二書の内容は、  
山崎氏の

抄に、  
法書

二書の内容は、  
山崎氏の

抄に、  
法書

右の抄書は、世に主として法書として知られ、  
其の筆致は、極めて整然として、  
一筆一画、悉く丁寧である。

右の抄書は、世に主として法書として知られ、  
其の筆致は、極めて整然として、  
一筆一画、悉く丁寧である。

南島一作あり白多組の法と後記あり  
石江の法と之と一類あり

石江之由程の地と云ふ  
能くあり 万々

けの原と申

万々

井口 河原と申

万々

石江の地と申

口 万々  
口 万々  
口 万々  
口 万々  
口 万々  
口 万々  
口 万々  
口 万々  
口 万々  
口 万々



仁林代法

仁林代法

山浦

山浦

山浦

〃

三付

〃

仁林代法

〃

仁林代法

仁林代法

仁林代法

仁林代法

仁林代法

仁林代法

仁林代法

仁林代法



王行

帝系

子

元

王

古

子

法

帝

少

王

古

子

法

帝

山

Technical notes and characters in the left margin, including '法' and '帝'.

古の... 山

古の... 山

古の... 山

古の... 山

山

古の... 山

古の... 山

古の... 山

古の... 山

古の... 山

之字之在江以路子(以)之字

江陰(江)

後子也(以)之字(以)

田中(以)

之字(以)之字(以)之字

江陰(江)

大(以)之字(以)之字(以)之字

之字(以)之字(以)之字

之字(以)之字(以)之字

之字(以)之字(以)之字

之字(以)之字(以)之字

之字(以)之字(以)之字

之字(以)之字(以)之字

之字(以)之字(以)之字

之字(以)之字(以)之字

之字(以)之字(以)之字

之字(以)之字(以)之字

之字(以)之字(以)之字

古くは林檎の形に似て居るが此は昔は此の  
色も赤くはなれぬが今も赤くはなれぬ

ついでに

花は赤くはなれぬ

花は赤く

花は赤くはなれぬ

花は赤く

花は赤くはなれぬ

花は赤くはなれぬ

花は赤く

花は赤く

花は赤くはなれぬ

花は赤くはなれぬ

花は赤くはなれぬ

花は赤くはなれぬ

花は赤く

一、花は赤くはなれぬ

花は赤く

大正十二年後の事

少子城中を以て公慶孫早きは又も孰と云ふ如  
き月日梅の事如く梅孫身の中性も大義  
美も梅孫の梅孫人の子守て我も手書出使中  
世人別味くは中城も又も南時を以て梅孫  
の事も梅孫の事也且も梅孫の事也梅孫  
の事也梅孫の事也梅孫の事也梅孫の事也  
梅孫の事也梅孫の事也梅孫の事也梅孫  
の外梅孫の事也梅孫の事也梅孫の事也  
梅孫の事也梅孫の事也梅孫の事也梅孫  
の事也梅孫の事也梅孫の事也梅孫の事也

所往之處云々

信知云々

十二月廿六

了信吾人

神保國司

二ノ能事

田中

一ノ上

二ノ下

Handwritten notes at the top of the right page, including characters like '信', '知', '云', '々', and '所'.

信知云々

Main handwritten text on the left page, starting with '信知云々' and continuing with several lines of cursive script.

心付かしの世に生かするものなれば  
 志す所別なきに年々少くも  
 浮揚は舟の風向 風雲あるに  
 方多きと行かば 風雲あるに  
 心付かしの世に生かするものなれば  
 心付かしの世に生かするものなれば  
 心付かしの世に生かするものなれば  
 心付かしの世に生かするものなれば

二十一日

一巻の巻

心付かしの世に生かするものなれば  
 心付かしの世に生かするものなれば  
 心付かしの世に生かするものなれば  
 心付かしの世に生かするものなれば

一巻の巻  
 一巻の巻

○ 以手執杖智王の京都古く護國寺の家作す此物杖方  
此杖極く短く家来一箇之短く此年一廿年所此杖此年  
此年極く短く家来一箇之短く此年一廿年所此杖此年  
此杖極く短く家来一箇之短く此年一廿年所此杖此年

公武法あり此杖上より作す

此杖極く短く家来一箇之短く此年一廿年所此杖此年  
作

此杖極く短く家来一箇之短く此年一廿年所此杖此年  
此杖極く短く家来一箇之短く此年一廿年所此杖此年  
此杖極く短く家来一箇之短く此年一廿年所此杖此年

此杖極く短く家来一箇之短く此年一廿年所此杖此年  
此杖極く短く家来一箇之短く此年一廿年所此杖此年  
此杖極く短く家来一箇之短く此年一廿年所此杖此年



天朝 公急不棄不辱或極其

此德成之也 任斗海之印根 清家之文法計

此極彼之志其不遂之恨其以之何 自遂之勢其

大重水之泡其如之長其志由之大其滅之其居位

其任 此德成其如也 能其回其也 中其之 其業如河

此合有之其如也 能其回其也 中其之 其業如河

此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也

此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也

此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也

此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也

此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也

此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也

此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也

此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也

此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也

此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也

此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也

此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也 此身折其老也

清代之清室神祇方、何とは中譯を有し、其意を以て、  
ハ神交何一、而目言は由内、之入所可、之入所可、  
之根底は、其目指款、多し、其意、其入、力多、  
其意、十分、之首尾、合、之有、其意、其入、  
徳川家、其意、

清室、其意、其入、其意、  
清室、其意、其入、其意、  
計是、其意、其入、其意、

之入、其意、

清室、其意、其入、其意、

清室、其意、其入、其意、  
清室、其意、其入、其意、  
清室、其意、其入、其意、  
清室、其意、其入、其意、  
清室、其意、其入、其意、

清家公

將軍極其多之よし其旨存存之該事出野口 任月言授斗  
大任強之如志之病 信之りる上野の源守の如くは遠  
之源守博通神ありらる事あり 其杯を中に入官受りて  
幸いたる之主信之旨相共るなり 二和乃程之 若くは  
又々

將軍極其多之よし其旨存存之該事出野口 任月言授斗  
大任強之如志之病 信之りる上野の源守の如くは遠  
之源守博通神ありらる事あり 其杯を中に入官受りて  
幸いたる之主信之旨相共るなり 二和乃程之 若くは  
又々  
將軍極其多之よし其旨存存之該事出野口 任月言授斗  
大任強之如志之病 信之りる上野の源守の如くは遠  
之源守博通神ありらる事あり 其杯を中に入官受りて  
幸いたる之主信之旨相共るなり 二和乃程之 若くは  
又々  
將軍極其多之よし其旨存存之該事出野口 任月言授斗  
大任強之如志之病 信之りる上野の源守の如くは遠  
之源守博通神ありらる事あり 其杯を中に入官受りて  
幸いたる之主信之旨相共るなり 二和乃程之 若くは  
又々

一 水戸表之此旨大札未如無夜の追討  
公意不之教之其旨に於て是れは生記也百人程天物想之其旨  
の追討源氏に押寄申取戸一五七八多し其物想方多  
勢之善勢中一以徳生記一に榮之未及是旨有るなり其旨  
之如く也 公我勢田原言事其旨、是之之旨程生記  
等之此旨生記入之其旨一旨其旨言一其旨申之其旨  
之入記其旨、其旨、任月其保是之、若くは其旨

一 水戸表之此旨大札未如無夜の追討  
公意不之教之其旨に於て是れは生記也百人程天物想之其旨  
の追討源氏に押寄申取戸一五七八多し其物想方多  
勢之善勢中一以徳生記一に榮之未及是旨有るなり其旨  
之如く也 公我勢田原言事其旨、是之之旨程生記  
等之此旨生記入之其旨一旨其旨言一其旨申之其旨  
之入記其旨、其旨、任月其保是之、若くは其旨



江戸の事 推挙す形之は 推する 節の 遠く 形之は 形之は  
 有是形之形之云々 江徳云 仁皇まき 江徳云 所なり 江  
 形之 中より あり 有は 江徳云 保

公名 江戸 推す 形之 年 江戸 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す  
 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之  
 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之

大胡 公名 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之  
 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之  
 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之

江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之

江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之  
 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之  
 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之  
 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之  
 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之  
 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之  
 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之

江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之  
 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之  
 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之  
 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之 江戸 推す 形之

右之趣は也

清純堂古事本朝年中始り新海以上

九月四日

田中

公佐

言稿

印記

神保内御書

一巻 要人度

○ 以上之趣は身命之御書に由りて述ぶる如し  
多極如く之を以て之を元之に取物分り向ふこと  
能く之を以て之を以て之を元之に取物分り向ふこと

極之趣は也

申上後日迄は之を以て之を元之に取物分り向ふこと

申上後日迄は之を以て之を元之に取物分り向ふこと

新使之長り之を以て之を元之に取物分り向ふこと

第之序之信之之を以て之を元之に取物分り向ふこと

公武之自之之を以て之を元之に取物分り向ふこと

申上後日迄は之を以て之を元之に取物分り向ふこと

申上後日迄は之を以て之を元之に取物分り向ふこと

左之趣は也之を以て之を元之に取物分り向ふこと

且其人教之趣は也之を以て之を元之に取物分り向ふこと

集りて以て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは

高き方々傳 美々の因るを以て之を以て通するは  
松之伝の如く之を以て通するは  
新考を以て之を以て通するは  
情を以て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは  
佛土に於て之を以て通するは







所遊歴之者如... 未之極  
... 大早... 覺...  
... 長征... 一...  
... 國...

車... 神... 師... 遊... 歷... 未... 之... 極  
... 國... 長... 征... 一...  
... 大... 早... 覺...  
... 所... 遊... 歷... 之... 者... 如... 未... 之... 極

一色ぬきあかき後しぬきすてりていふなり  
佛正念のちかしの如く云ふるしんたてりて  
故及と仰し後にも云ふるしんたてりて  
中かき孫のちかしの如く云ふるしんたてりて  
不修徳と云ふるしんたてりて  
りて  
又今云く機会の待たぬ外なるしんたてりて  
云と云ふるしんたてりて  
念の如く云ふるしんたてりて  
心機を云ふるしんたてりて

三十一

十一

別成

修の礼を云はせる長証

佛正念のちかしの如く云ふるしんたてりて

佛所の云はるしんたてりて

佛正念のちかしの如く云ふるしんたてりて

佛正念のちかしの如く云ふるしんたてりて

佛正念のちかしの如く云ふるしんたてりて

佛正念のちかしの如く云ふるしんたてりて

勅使し御使と申更を修林と申おる申しは  
不々々々

御使を御使に侍る旨  
御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨  
御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨  
御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨  
御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨  
御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨  
御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨  
御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨  
御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨  
御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨

御使を御使に侍る旨

古くは

禁庭

よりいへば  
七の  
詳  
御  
と

少子

後  
御  
と

十

甘  
御  
と  
御  
と  
御

二之形部紀

神保國部為皮  
了原委人皮  
肉房在午知皮  
為石文在皮  
上回一子之皮

江戶形部口古書神部系一  
神部別形部口古書神部系一  
神部別形部口古書神部系一

佛部系一古書神部系一

古書神部系一古書神部系一  
古書神部系一古書神部系一

以我為被華不極口年一物行始列我之  
業一也

任者之親亦不極口年一物行始列我之  
即往即下不知事一物行始列我之  
若一自一之也

十月廿

廿五日  
水石出  
田中古

二 神祇外紀

神祇外紀  
了信如人皮  
用者色一物皮  
子今之文書皮  
上回一學皮

神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀

神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀  
神祇外紀







有るは又此の條に候中候儀も亦存候事と申すは其の如し  
其の條に三難あり候事候は其の條に申すは其の如し  
情の旨候事候は其の條に申すは其の如し  
其の條に申すは其の條に申すは其の如し  
其の條に申すは其の條に申すは其の如し  
其の條に申すは其の條に申すは其の如し  
其の條に申すは其の條に申すは其の如し  
其の條に申すは其の條に申すは其の如し

其の條に申すは其の條に申すは其の如し

其の條に申すは其の條に申すは其の如し

此の條に申すは其の條に申すは其の如し  
其の條に申すは其の條に申すは其の如し  
其の條に申すは其の條に申すは其の如し  
其の條に申すは其の條に申すは其の如し  
其の條に申すは其の條に申すは其の如し  
其の條に申すは其の條に申すは其の如し  
其の條に申すは其の條に申すは其の如し  
其の條に申すは其の條に申すは其の如し

其の條に申すは其の條に申すは其の如し

少時城內忽有異聞信及之徒百捕只恐其不  
及遂於西面中列城也  
又於城內建一小廟民之却居其後遂有  
事年一月了了中其巨佃以味二乃及在  
穿者中穿乃乃白連二死者中穿者  
徑如二穿者二直以死之者其也  
中其也  
此乃南山口也乃乃此乃乃乃乃乃乃  
信之徒南穿者入守中穿



了原委人皮

因原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

了原委人皮

持此研如之曰持研之人多不之知所相者曰恒候才在  
任物正者一曰之入東都十卷之計方之平一曰列武志海  
口者一者上者之相一者之令

貞元六年 上田一學

言相亦能相  
田中一也作相  
一版動之也相  
丹保之也之相

彼而亦持研之曰持研之人多不之知所相者曰恒候才在

此後自持研  
持研之人多不之知所相者曰恒候才在  
持研之人多不之知所相者曰恒候才在  
持研之人多不之知所相者曰恒候才在

二一

若而然然之不常持研之在國月日  
持研之人多不之知所相者曰恒候才在  
持研之人多不之知所相者曰恒候才在  
持研之人多不之知所相者曰恒候才在

但回之古是也... 抄本... 卷之... 抄本... 卷之... 抄本... 卷之...

予之...

甘乳... 抄本...

抄本... 卷之... 抄本... 卷之...

但得... 抄本...

三月...

抄本...

抄本...

抄本...

抄本...

抄本...

抄本...

抄本...

抄本...

抄本...

抄本... 卷之... 抄本... 卷之... 抄本... 卷之... 抄本... 卷之...



*Handwritten notes in red ink at the top of the right page.*

*Main handwritten text in black ink on the right page, written vertically.*

*Handwritten notes in red ink at the top of the left page.*

*Main handwritten text in black ink on the left page, written vertically.*

Handwritten notes in red ink at the top of the right page, including the characters "十一" (11) and "文" (text).

Main body of handwritten text in black ink on the right page, written in a cursive style.

Main body of handwritten text in black ink on the left page, written in a cursive style.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial letter, possibly 'H', and continues with several lines of text. The script is highly stylized and characteristic of the 17th or 18th century.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial letter, possibly 'H', and continues with several lines of text. The script is highly stylized and characteristic of the 17th or 18th century.



他に... 和... 可... 世... 亦... 此... 乃... 十...

十...

口... 仕... 所... 一... 其... 之... 加... 其...











古事記云云云云云云云云云云云云

一 古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云

古事記云云云云云云云云云云云云



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting from the top right and moving downwards. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting from the top right and moving downwards. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

新に漢州府を以て一府として置るべしと云ふは  
先づ此二府を以て一府と爲すに似たり  
此二府の置るべしは古に於ては  
置るべしと云ふは古に於ては  
置るべしと云ふは古に於ては  
置るべしと云ふは古に於ては  
置るべしと云ふは古に於ては  
置るべしと云ふは古に於ては  
置るべしと云ふは古に於ては

同様に置るべしと云ふは古に於ては  
置るべしと云ふは古に於ては  
置るべしと云ふは古に於ては

ありき

上田 一孝

同様に置るべしと云ふは古に於ては

置るべしと云ふは古に於ては

置るべしと云ふは古に於ては

置るべしと云ふは古に於ては

置るべしと云ふは古に於ては  
置るべしと云ふは古に於ては  
置るべしと云ふは古に於ては



~  
~  
~  
~  
~  
~  
~  
~

~  
~  
~  
~  
~  
~  
~  
~

~  
~  
~  
~  
~  
~  
~  
~  
~  
~  
~

~

抄本  
一  
...

...

一  
...

















以我十家世族故地教者知按子及周古用村莊  
有云自力之滋益如此少者一為之在也山台之  
嶺地之女子言其在作此物也而女子色紅  
上好地公和能回得幾人而指之物也  
浦系那這回以少和村以積利厚者多也  
紅山山莊有女子大牙的也別方有要其能而  
年入云山莊村也女子也其言一  
其言一其言一其言一其言一其言一其言一  
其言一其言一其言一其言一其言一其言一其言一  
其言一其言一其言一其言一其言一其言一其言一其言一  
其言一其言一其言一其言一其言一其言一其言一其言一其言一

神庭也其物也

一其言一其言

其言一其言

其言一其言

其言一其言  
其言一其言  
其言一其言  
其言一其言  
其言一其言  
其言一其言  
其言一其言  
其言一其言  
其言一其言  
其言一其言

其言一其言

其言一其言





此列城之通者因節之未好者十數年十餘年也  
此後之故以之而世之為之向隔出此掃向如之  
此利古女者之此一部之知之故其故也此  
此河之通者之未好者中而用之者其故也  
此之通者之未好者之固疑也其故也  
此之通者之未好者之固疑也其故也  
此之通者之未好者之固疑也其故也  
此之通者之未好者之固疑也其故也

此後十數年十餘年也  
此後十數年十餘年也  
此後十數年十餘年也  
此後十數年十餘年也  
此後十數年十餘年也  
此後十數年十餘年也  
此後十數年十餘年也  
此後十數年十餘年也  
此後十數年十餘年也  
此後十數年十餘年也

九月

并原為志  
一德 劫之志  
四年古志  
之格外記

上田 一之夜

下











Handwritten text in cursive script, likely a list or account, consisting of several lines of characters.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account from the previous page, with multiple lines of characters.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific entry, located in the upper portion of the page.

Small handwritten characters, possibly a date or a specific note, located below the main text block.





此二科、其後、若集、之、入、紀、人、年、風、俗、一、概、也、云、  
孫、弟、在、所、也、其、事、也、高、古、物、也、死、也、之、俗、也、云、  
孫、弟、不、之、般、也、方、在、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
の、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、

智、の、行、の、科、也、一、之、也、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、  
之、俗、也、云、之、俗、也、の、俗、也、あり、方、の、俗、也、云、

吉田世系



是又下也汁為之其持之方夫之之其為之方也下也  
也各以之也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也  
其以之也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也  
右者其也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也  
其以之也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也  
河津之也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也  
調也其也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也  
子之也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也  
後又其也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也

右者其也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也  
其以之也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也  
河津之也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也  
調也其也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也  
子之也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也  
後又其也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也  
此之也水之為之其持之方夫之之其為之方也下也











多岐の道にてはまはるる事

十七日

河津より神倉まで舟に乗りて東海に舟を出す。舟に乗りて東海に舟を出す。舟に乗りて東海に舟を出す。

舟に乗りて東海に舟を出す。舟に乗りて東海に舟を出す。舟に乗りて東海に舟を出す。

舟に乗りて東海に舟を出す

十七日

河津より神倉まで舟に乗りて東海に舟を出す。舟に乗りて東海に舟を出す。舟に乗りて東海に舟を出す。



Handwritten text at the top of the right page.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text at the bottom of the right page, possibly a signature or a specific note.

Handwritten text on the left page, starting with a large initial character.

Main body of handwritten text on the left page, continuing the cursive script.



井原三浦村  
内方、とらぬ  
一節、とらぬ  
一節、とらぬ

河津三浦村に於て、船主、西に下り、船主、西に下り、  
今、西に下り、船主、西に下り、船主、西に下り、  
西に下り、船主、西に下り、船主、西に下り、  
北に下り、船主、西に下り、船主、西に下り、  
西に下り、船主、西に下り、船主、西に下り、

東に下り、船主、西に下り、船主、西に下り、  
西に下り、船主、西に下り、船主、西に下り、

十一日

西に下り、船主、西に下り、船主、西に下り、  
西に下り、船主、西に下り、船主、西に下り、  
西に下り、船主、西に下り、船主、西に下り、

十一日

西に下り、船主、西に下り、船主、西に下り、  
西に下り、船主、西に下り、船主、西に下り、  
西に下り、船主、西に下り、船主、西に下り、



古事類聚卷之三十一

青

菅野

丹波

一

少

田中

二

神保内

一

内

一

一

河

...

...

...

...

...

清平の事は、  
去海陽也、  
水門の事は、  
為らば、  
治末の事は、

三月二日

以て、  
力と、  
少と、  
清と、  
以て、  
及、  
高、  
振、  
以、





七也左未の厨及内信を、在りては、  
凡るに、  
概て、  
よるに、  
て、  
あり、  
ふら、  
高、  
作、

事、  
と、  
と、  
此、  
と、  
あ、  
と、  
と、  
と、  
と、  
と、



紙白身札と夜抄の事  
此の事、乃海軍の事、大工トロウクナシリ、  
此の事、乃海軍の事、大工トロウクナシリ、  
此の事、乃海軍の事、大工トロウクナシリ、  
此の事、乃海軍の事、大工トロウクナシリ、  
此の事、乃海軍の事、大工トロウクナシリ、  
此の事、乃海軍の事、大工トロウクナシリ、  
此の事、乃海軍の事、大工トロウクナシリ、  
此の事、乃海軍の事、大工トロウクナシリ、  
此の事、乃海軍の事、大工トロウクナシリ、  
此の事、乃海軍の事、大工トロウクナシリ、

三月六



故納仕方より下河津まで多特給ふ身持集古納仕  
 仕方より下河津まで多特給ふ身持集古納仕  
 仕方より下河津まで多特給ふ身持集古納仕  
 仕方より下河津まで多特給ふ身持集古納仕  
 仕方より下河津まで多特給ふ身持集古納仕  
 仕方より下河津まで多特給ふ身持集古納仕  
 仕方より下河津まで多特給ふ身持集古納仕  
 仕方より下河津まで多特給ふ身持集古納仕  
 仕方より下河津まで多特給ふ身持集古納仕  
 仕方より下河津まで多特給ふ身持集古納仕

三十一

- 一四郎 文吾
- 一 康 安人
- 神保内務所

一 高橋 外記  
 一 中 出 佐 友  
 一 瀬 勤 幸 友  
 一 丹 原 隆 幸 友  
 一 内 倉 通 幸 友  
 一 菅 田 一 幸 友



一傳 西之表  
田中 古外  
二傳 外紀

神保國書  
了傳 西人  
因是 全了  
西師 各各  
上回 一了

江守 北口 廿五 解 別 系 年 上 年 略  
我 角 之 終 始 之 別 之 年 上 年

佛 中 之 教 之 以 尚 事 之 功 之 以 中 也  
但 傳 事 之 終 始 之 別 之 年 上 年  
古 師 中 之 終 始 之 別 之 年 上 年  
子 中 之 終 始 之 別 之 年 上 年

三月 廿六





十月廿

其意如之極法  
并深蒙多力  
了清之功業如  
水石亦如無言  
回中古往  
之存特弗記

神保國初創  
了清要人皮  
肉多之勿皮  
為師文書皮

上回一之皮

以多身孔口廿五得別業年一之身也  
其而別身身孔之皮得身之皮也  
神下多之身也其皮多之身也其皮多之身也

十月廿

おかげさまで

江戸より下りて、三浦郡に於て、今、おぼれ、おぼれ

おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ

おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ

おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ

おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ

おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ

おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ

おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ、おぼれ



Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, consisting of several lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, consisting of several lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, consisting of a few lines of text.

少々高直金に於て

九月廿三日

又此の如く  
多し之を  
石原の  
取上り  
此の如く  
此の如く  
此の如く  
此の如く  
此の如く











海  
之  
風  
光  
也

